

令和元年度 南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会 会議録

日 時 令和元年 9 月 30 日（月）午前 9 時～

場 所 福野庁舎 201 会議室

出席者 ○委員 8 名

高山純一委員（委員長）

松本久介委員（副委員長）、岡島奈美子委員、西村大仁郎委員、

尾田慎一郎委員、岡部智美委員

浦井啓子委員、浅田直彦委員

○南砺市

田中市長

○事務局 4 名

柴市長政策部担当部長、石崎行革・施設管理課長、

森施設再編係長、山田副主幹

（開会）午前 9 時

【石崎行革・施設管理課長】

定刻になりましたので、第 1 回南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会を開催いたします。本日、司会を務めさせていただきます、市長政策部行革・施設管理課の石崎と申します。よろしく願いいたします。まず始めに、選任いたしました委員の皆さまに、委嘱書を田中市長より交付します。

〔田中市長から委嘱書の交付〕

今ほど委嘱状を市長からお渡しいただきました。

改めまして、委員の皆様を名簿順にご紹介させていただきます。

本日、尾田慎一郎さんは出席されますが、10 分から 20 分ほど遅れると連絡を受けております。

〔紹介〕

【石崎行革・施設管理課長】

次に、委員長及び副委員長の選出についてお諮りいたします。「公共施設再編計画改訂方針検討委員会設置要綱」第 5 条第 2 項の規定により、委員長は委員による互選、副委員長は委員長の指名によることとなっています。

まずは委員長の互選につきまして、委員の皆さまから、ご意見がありましたらお願いいたします。

【C委員】

事務局で案があればご提示いただければ

【石崎行革・施設管理課長】

ただいま、C委員より事務局の案があればとのことでしたので、事務局より提案させていただきたいと思います。これまで複数の自治体で、数多くの審議会等の要職を務められた経験をお持ちである、高山委員に委員長をお願いしたいと思っております。異議がないようであれば、委員の皆様方の拍手をもって、了承を賜りたいと存じます。

《拍手》

ありがとうございました。続きまして、副委員長の選出ですが、要綱のとおり、委員長が指名することとなっておりますので、高山委員長よりご指名をお願いしたいと存じます。

【高山委員長】

それでは、要綱にしたがって指名させていただきます。

地域づくり協議会より推薦され、市地域づくり協議会連合会の会長もお務めで、地域のとりまとめに日夜ご尽力されていらっしゃる、松本委員に副委員長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか？

【石崎行革・施設管理課長】

ただいま、高山委員長より地域づくり協議会連合会の松本会長の指名がありました。よろしければ拍手でご了承をいただきたいと思います。

《拍手》

ありがとうございます。

それでは、ただいま、就任されました委員長、副委員長のお二人はお席の移動をお願いします。それでは、高山委員長にご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【高山委員長】

改めましておはようございます。ご指名ということで委員長を努めさせていただきます。みなさんご承知のとおり、南砺市も他聞にもれず、人口減少が進んでいると聞いておりますし、各自治体においては社会インフラの維持管理が近々の課題で、高度経済成長期にたくさん作った道路とか橋とか、そういうものの維持管理が非常に難しいと言われております。同様に、公共施設についても、特に平成の大合併で多くの自治体が合併した南砺市、4町4村が合併したわけですが、多数の自治体が合併したところにおいては特に、同じような複数の施設があると、そういうものの維持管理はこれからますます厳しくなってくるのかなと思います。そういうものの再編については、国のほうでも、来年度までに個別計画をきちっと立てて出さないといけないというふうに指示が出ているようです。金沢大学も同じように指示されておりました、なかなか大変だなと、いつも学長が言っております。おそらく南砺市も人口がかなり減ってきた。ふるさと創生で減らないようにがんばって計画を立てたのですが、なかなか思い通りにいかないというのが自治体だと思います。

そういう意味からすると、限られた財源の中でこういう施設をいかに有効に活用していくか、ということが非常に重要なことだと思っております。国のほうでもPPP/PFIの事業をきちっと作りなさいということで、いろんな支援の枠組みがあるようですので、そういうものもうまく活用しながら、計画づくりに、この改訂方針ということですので、これまである方針をさらに見直すということかと思っております。

【石崎行革・施設管理課長】

ありがとうございます。続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります田中市長より、ごあいさつを申し上げます。

【田中市長】

日頃からお世話になっておりますが、今日は大変お忙しい中、また集まりにくい時間ではありましたが、委員のみなさまにご出席いただきました。心から感謝申し上げます。いまほどは、高山委員長、松本副委員長がご選任されました。今後ともよろしく願います。いまほど、委員長の話にありました通りでございます。全国的にこれから人口減少がかなり早く進んでいく、あるいはさらにスポードが上がっていく、というふうに見られております。そういった中で、行政運営から行政経営へという観点で、どれぐらいのコストで、住民サービスをどのように維持していくかという中で、さまざまな議論がなされているところで

ございます。我々の世代、そして次の世代、もっと先の世代にむけて持続可能な行政経営をするためには、どのようなことを今、やらなければならないか、こういったことを議論していかなければならない、そういう時代だと認識しております。町村合併から15年が経過し、この15年目というのは、総合計画と総合戦略が、今年度までの計画で、同時に、合併の優遇措置が期限を迎えるという転換期の年でもあります。次の計画、未来に向けてしっかりと議論をしていく大変重要な1年ということで、かなり広範囲にわたって議論を進めているところでございます。例えば、「補助金」の制度についても改めて公平性、そして見直しをしております。また「公共施設利用料金」の公平性についても見直しを進めています。また「職員定数の適正化」、これは来年度7月から庁舎を統合しますので、それにあわせて機構改革、また、その後10年の定員適正化計画も同時に策定をしなければならないということで取り組んでいるところでございます。

現在の第2次南砺市公共施設再編計画は、平成28年度から30年かけて公共施設の延床面積を約19万㎡縮減する計画ですが、進捗は非常に苦戦しておりますが、その計画に向けてしっかり取り組んでいかなければならないのは当然ですが、さらに人口減少、さまざまな情勢が変化しております。再編計画の基本となる公共施設等総合管理計画では、25万㎡の公共施設の延床面積を縮減することとしており、再編計画とは約6万㎡の差が生じているのが現状です。今後、ますます財政状況が厳しくなると予想されるなかで、ブレーキとアクセル、というものが、住民サービス、もしくは将来へ向けての不安感をあおることなく、

この地域で幸せに暮らしていく、そういったものを担保するのが、行政でございますのでしっかりと議論をして確実に行財政改革を進めていく、そして市民の皆様理解をしていただきながら、確実に進めていくことが大変重要だと思っております。

今回の改訂方針検討委員会のみなさまには、まさに次世代のみなさんの負担軽減を念頭に、残すべき公共施設の機能分類ごとのあり方について協議いただきたいと思っております。それを受けて次年度では、残すべき具体的な施設を決定していくための委員会を、改めて設置することとしています。公共施設の再編は、利用者である市民に直結する非常に重要な問題でもあります。

総論は分かったぞと言いますが、それぞれ地域に入り各論に入りますと、非常に難しい点がありますが、未来を語りながら、世代交代がそれぞれの地域・家庭であります。少し長いスパンでの計画ですので、この計画をしっかりと取り組ん

でいきたいと、そういう大きな覚悟で取り組んでまいりたいと思います。
今日は、限られた時間となりますが、委員各々の立場や視点からご意見を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

【石崎行革・施設管理課長】

なお、田中市長は、この後、別の公務もありますので、退席させていただきますので、ご容赦願います。ここで、資料の確認をさせていただきます。本日の資料についてきましては、事前に委員の皆さまに送付させていただいており、ご持参いただいていると思いますが、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。本日、ご持参いただくようお願いしていた資料は、次第・委員名簿・座席表、計画書は南砺市公共施設等白書・南砺市公共施設等総合管理計画・第2次南砺市公共施設再編計画の3つです。そして、資料1：第2次南砺市公共施設再編計画の進捗状況について（R1.6.30 現在）、資料2：南砺市の現状について、資料4：第2次南砺市公共施設再編計画の改訂について参考資料：南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会設置要綱でございます。不足しているものがございましたら、お申し出くださいますようお願いいたします。資料3：歳入・歳出全体ベースでの財政推計については、本日間には合いませんでしたので、口頭で説明の中で触れさせていただきます。

それでは、次第5の協議事項に入ります。規定により委員長に議長を務めていただくことになっておりますので、高山委員長、よろしくお願いいたします。

【高山委員長】

いま市長のお話にもありましたが、大変難しい内容の検討をしなければならぬと、事前に送られてきた資料を見てびっくりしました。大変分厚い資料、白書も含めてですが、そういう意味からするとかなり大変なことを付託されているかなと思っております。

まず、協議事項 1) 南砺市の公共再編に係る取り組みについて、ならびに 2) の南砺市の現状等についてまで、事務局から説明してください。

〔事務局説明（資料1・資料2）〕

【高山委員長】

かなり膨大な資料を、それでもコンパクトに説明をしていただきました。お話しを聞いているとマイナスの額が天文学的な数字で大丈夫なのかな、このままいったら再建団体に転落するのではと思うくらいの額で、これは何とかしないとイケないというのが、この委員会なのですが、いかがでしょうか。まず、全部

ご理解いただくというのは厳しいところはあると思いますが、少し気になった点であるとか、もう少し詳しく説明してほしいとか、そういうことでも結構ですし、全体を通しての意見でも結構ですが何かございましたら、お願いしたいと思います。どこからでも結構ですが、いかがでしょうか。

【C委員】

5カ年の譲渡・解体の状況について短期は、あと1年残しているとは言え、達成率が現時点で17.5%となっている主な原因というか、そもそも短期に入れるのは間違いだったのか、意外と地元の抵抗が激しいのか、よく分かりませんが、市ではどんな風に分析されていますか？

【森施設再編係長】

非常に達成率は低い状況に至っております。私どもの方で譲渡交渉・再編に向けた手続き等を進めていて課題となっている点について把握していることを述べさせていただきます。社会的情勢というのが、まず1点としてございます。県内もそういう傾向にあり、南砺市は特にそうだと思いますが、財産の流動性というのが低い地域・土地柄ではないかということです。土地なり建物の売買件数が非常に低い土地柄というのが、まず1点あるかと思えます。

もう1点は、施設的な課題です。再編の対象となっている施設は、遊休施設もあり、今現在使っている施設もあるのですが、耐用年数がもう目の前に迫っています。耐用年数が経過し、老朽化が非常に進んでいる施設が多数ございます。これらの施設について、解体を押しつけるとまではいかないのですが、そういう風に受け取られるところもあります。当然、活用していただく施設もあるのですが、中々その施設に見合った活用方法が見出せない、すでに老朽化していて中々立ち行かないということがあると思われるのが1点。また、民間で取得されると租税公課というものが発生してきます。取得されたら不動産取得税、登記があれば登録免許税、その後に固定資産税がかかってきます。公共施設は、民間の施設に比べて華美で意匠が凝っています。頑丈で耐震性の高い施設もあるのですが、後々の固定資産税の負担が大きいということもあります。使っている資材や間取りも意匠・デザイン性を重視したつくりになっていることから負担感があり、それを上回る収入を上げないと後々の経営が厳しくなるという点もあるというのが施設的な問題です。

そして、もう1点、この計画短期に位置づけて取り組めない施設というのが実は出てきています。宅地の上に建っている施設の場合、土地の所有者の了解を得て施設を売買しないといけません。それが河川区域に入っていたり、ほかの会社の土地の上にあつたりして中々同意を得られない、売却するにあたって土地

の所有者の了解が得られないということがあります。それともう 1 点、具体的に申し上げますと「道の駅」です。道の駅は、規定によって国で設置されているのですが、自治体の所有でないと道の駅として認めないという制限がかかっています。ですので、民間に譲渡する上で、道の駅という看板が魅力だという点があり、市の所有から中々手放せないという実態がございます。

大きく分けましてこの 3 点が課題として上がってきていると思っています。

【C委員】

今日、委嘱状をもらった我々は、短期 5 年の計画があと 1 年で切れる、今度の中期の 5 年間の計画というのは、既に施設を特定していて次の 5 カ年で再編するという計画となると、計画改訂にあたって我々の任務というのは分かりやすく言うと、どういうことになるのか。1 期目を踏まえて、2 期目の計画を確定するというか、短期 5 年、中期プラス 5 年、その方針を確定するというのでしょうか？

【森施設再編係長】

再編計画にのっている施設は、縮減対象とさせてもらっているのですが、これに触れるということは考えていません。ただし、総合管理計画で 25 万㎡縮減しなくてはならないという方針が出ています。ですが、再編計画では 19 万㎡しか決まっていけないので、その差である 6 万㎡を決めなくてはならないというのがまず 1 点。この差を埋めていただきたいなと思います。資料 4 をご覧ください。本委員会にお願いしたいのは、5 番目の「計画改定の主な内容」としてあげております。令和元年度として、本日は公共施設の保有状況・利用状況・コスト状況等の確認をしていただきました。また、将来の人口推計もさせていただきました。申し訳ございませんが財政シミュレーションの検証というのが途中段階でして、本日お示しする予定でしたが叶いませんでした。本委員会では、最終的に保有すべき 25 万㎡の公共施設の機能と規模を決定してもらいたいと思っております。ですので、再編計画で決まっていない残り 6 万㎡の分類、施設数をどうしていけばよいのかということはこの委員会で決めてもらいたいと考えております。

【石崎行革・施設管理課長】

資料 4 の A3 の資料にあげておりますが、集会施設・文化施設と続いていくのですが、25 万㎡と言いながら 19 万㎡しか決まっています。6 万㎡を増やすというのも当然そうなのですが、今まで 3 年間取り組んできた中で、先ほども触れたように道の駅は譲渡できない、市で持たないと道の駅としては使えないということですので、もし、道の駅を残すということであれば他のものとして考えなけ

ればいけないということも出てまいります。それから今、井口の小中一貫校という取り組みも進めています。そういうものを残すとなれば、残すという前提で再編計画を考えていかなければなりません。まずは、総合管理計画の25万㎡という方針が左側に書いてあります。これを基にした再編計画で皆さんと話したい19万㎡というのが右側半分に載っています。この左側と右側で6万㎡の差が出ています。その差6万㎡を含めて、例えば文化センターを残すのか残さないのか、残すのであればいくつ。体育館を残すのであればいくつ、学校を全部残すのか残さないのかという、そういったことを今年度、決めていただいて、次年度には、どの施設を残すのかということを具体的に検討いただきたく。再編計画の短期・中期の個別のことは来年、今年度は各施設の分類ごとの残す数、残すべきか残さないでおくべきかを含めて、ご検討いただきたいと思っております。

【C委員】

短期・中期・長期の計画について一番見やすい資料は？どの施設が中期で、どれが長期とか分かるものはどれでしょうか？

【森施設再編係長】

分かりやすいのは、第2次公共施設再編計画の16ページ以降に各施設の一覧がありまして、再編時期が短期・中期・長期の前半後半という4区分で期間を分けております。この短期に入っているところで、例えば城端の農業者集会施設（北野軽スポーツセンター）であれば「短期」の「譲渡2」ということで、短期での再編対象になっています。一方、17ページの一番目にあります城端勤労青少年ホームの再編時期は「中期」に設定され、「複合化」として再編の方向性が位置づけられているという見方をしてもらえれば、これが一番見やすいと思います。

【高山委員長】

ほか、いかがでしょうか？

【D委員】

公共施設白書の方で、公共施設の定義というのが50㎡以上の施設とインフラという風に書かれていると思います。で、再編計画を見ると、真ん中の方に、説明からは外されてしまったんですけど、公共施設とインフラ施設の両方を維持管理するためにはお金が足りませんよという話になっていて、今は公共施設の施設のことだけについて触れられていると思うのですが、例えば施設が目標を達成しました。ただ、インフラの方はゼロでしたとなると、また破綻してしまう

という両輪の資料をいただいているのかなと思っていて、その中で片方しか触れられていないというのは何か意味があるのでしょうか？

【森施設再編係長】

時間の関係で説明を端折ってしまい申し訳なかったのですが、この委員会では、公共施設を対象に議論していただきたいと思っております。一方、インフラについては、道路・橋梁ならびに上下水道については、また別にストックマネジメントという検討を進めております。インフラについてはそちらの方面で、縮減・更新等のあり方というものを検討されていくということですので、市としては一体的に取り組んでいくこととしております。で、こちらの委員会では公共施設についてピックアップして議論してもらえたらと思っております。以上です。

【C委員】

短期に位置づけられたもので交渉が難航したり、方向性が定まらなかったりしているのを見て改めて思うのですが、私のイメージでは、短期は、例えば五箇山荘など当初の目的を達してしまったり、または他の地域から見たら、こんなものは市で保有しなければいけないものかというような、ザックリとした言い方ですが、そういうものを短期の中で速やかに処理してしまうということでは選ばれたかと思えます。例えば、デイサービスの施設が6箇所ほど（あがっていますが）こういうものが、これから高齢者のあり方をどうしていくべきかという大事な時期に議論が分かれそうなものは非常に難しい。社会福祉協議会などにもらってくれと言っているとは思いますが、社会福祉協議会も経営がやっとなりやっとなりで職員を減らさなきゃいけないとか、出張所を潰さなければいけないとか議論をしている最中に、もらってくれと言われてたって非常に難しい施設だと思ふ。そういうものを短期に入れ込んだことが、そもそもいかなものか。もう少し住民の理解を得られやすそうなものに集中して交渉を進める。または代替施設、例えば2つや3つあった保育園を1つに統合して2つ余るとか、そういう施設は、こういう計画にあるとかないか関係なく、直ちに解体してしまうなり、白黒つけて、後は地域住民で使いたいというなら、すぐその場で譲渡してしまうとか。ダラダラしていると旧保育園なんかでも非常に苦戦しているじゃないですか。短期に入れるべきだったかということで、分かりやすい例で言えば、福光のクレ射撃場とか、井波の美術館とか。こういうものがいきなり短期に入ったということが17.4%という達成率の結果に繋がっているのではないかと率直な感想があるのですが、それについては、何かコメントがありますか？

【石崎行革・施設管理課長】

基本的に短期に入れたのは産業経済系の施設で、いわゆる行政でなくても民間で持てるでしょうという施設が大きくなるかと思います。それと特別養護老人ホームは、福寿会という社会福祉法人ですが市長が理事長をやっております、他の市町村では民間でもっているところが多々ありましたので、これにつきましては速やかに、5年以内にといいことで現在もその方向で進んでおります。当時は、市民の皆さんにもご説明申し上げ、納得いただけたものと私どもとしては考えております。それからクレール射撃場についても、石川県の射撃場は民間でやっておられましたので、そういうことを踏まえてやっているということとか、井波美術館については、今はいろいろ地元の方との交渉が出てきておりますが、もともとは地元の美術協会が管理されていて、方針としても指定管理の施設でしたが、地元としてもその段階では管理できないということでしたので、「譲渡」の方に変えさせてもらいました。ですので、最初から皆さん反対だったということではなくて、総論賛成各論反対のそういう議論の中で現状に至っているということかと思っています。

【C委員】

射撃場も、イノシシやシカが増えて、サルは鉄砲では撃たないと思いますが、猟友会の方々や若手の育成指導や技術向上のために非常に大事な施設。黒字だとか赤字だとか、他の県に行くと民間がやっていると言っても、南砺市で（民間が）経営してくれるなんて訳は分からないのだから、前期にあげたものは、この策定委員会ですと前期のまま据え置いて、一度見直すとか、後ろの方に据え置いて進捗率を上げるとか。数字を上げるために見直すというのも変な論理だけど、決着がつきそうに無いものを、どれだけでも前期にあげておいて、宙ぶらりんにしておくというのはいかがなものか。「これは考えていたより難しいな、これは後ろに延ばした方が良くもしいない」というような見直しはしないのか？

【石崎行革・施設管理課長】

それについては来年度にやります。まずは何を残すかということを決めたいと思っております。

【C委員】

中期もですか？

【石崎行革・施設管理課長】

中期というか、全体として総合管理計画を作ったときには50万㎡ある施設を

半分にしないと、南砺市の将来の子どもたちにまでもたせられませんとして、そう言った訳ですので、将来の皆さんに何を残していくのか、そこをまず決めていくということになります。

【C委員】

前期・中期・長期の前半後半と4つのグループがあるが、その全体にわたって譲渡または解体などの分類に入れるべきかどうかを考えるのが我々の当面の任務ということでよろしいか？

【石崎行革・施設管理課長】

今年度は何を残すかを検討していただきたい。譲渡や解体とかの方向性を皆さんに考えていただく訳ではなく、将来の子どもたちに文化センターをいくつ残すか、体育館をいくつ残さないといけないのか、学校はいくつ残すのか、そういったことを決めていただいた上で、翌年から文化センターをいくつ残すということであれば、どの施設を残すのかという議論をしていきたいと思っております。25万㎡のうち、今決まっているのは19万㎡、その差の6万㎡も含めてです。今ほど言われたクレー射撃場を残すということになれば、既に再編対象になっておりますので、残すのであれば別のものを考えないと将来の子どもたちに負担が残ります。今の話でも、クレー射撃場は本当に市として持たなければいけないのか、将来の子どもたちが負担しなければいけない施設なのかということも含めて、この中で案を作っていただきたいということです。

【柴担当部長】

50万㎡を半減させるという基本方針は変わりません。19万㎡の方向性は決まっていますが残り6万㎡が決まっておりません。6万と19万をあわせた25万㎡の中で、どういったものを残すかということ、この中で再議論して来年度に短期・中期・長期の前半後半を見直すという流れになるかと思えます。

【C委員】

再編の考え方でいつも悩んでしまうが、維持していくための更新、更新というか、ボイラーを直すとか、天井の防水加工をやり直したり、瓦を葺き直したり、その他維持のための経費がかかるのは事実だが更新しないという考え方。例えば文化センターが3つあるけど全部は維持できないから耐用年数が来たら順番に潰しますよという考え方と、耐用年数の来ていないものを含めて計画を決めるという難しさがあると思う。耐用年数が来たらこういう施設は、新しいものへの建て替えは到底出来ないで、老朽化したものから順番に潰していきますと

いう考え方も一方であります。だけれども、我々は生首を切るようなことを、耐用年数がまだ 20 年ほどあるものを「あれはいらない」「もう大丈夫だ」と言ってしまう委員会なのか？南砺市には施設の数が多すぎるので、耐用年数が来たものから順次廃止していきます、という考え方も一方にある。何年に建てられて、あと何年経ったら耐用年数が来るとか、そういうことをトータルして、我々にいくつ残すのがよいかまとめてほしいと言われても悩んでしまう。

【高山委員長】

非常に難しい問題で、耐用年数が過ぎたものばかりだと、どこかに引き取って欲しいとなっても誰もいらないと実際になってしまう。逆に言うと新しく 20～30 年の耐用年数があり、民間活用も出来るような施設であれば、民間も譲り受けて活用しようかという話にもなる。ある意味、短期に入っているような施設は、公共が持つべきであっても民間でも持てるよというものを選定されたのだらうと思う。例えば、特養などは、金沢では民間というか公益福祉財団とかそういうところがされているのがほとんどで、市がやっている施設は無いと思います。そういうことからすると、作るときにお金がかかったから市が頑張って作ったのだらうと思います。これはなぜ引き受け手が無いのか、不思議です。あまりにも華美に作っているからですかね？

【石崎行革・施設管理課長】

華美ということもあるでしょうが、やはり設立の経緯として、行政がかなりの部分を運営してきた社会福祉法人が、中々民間になりきれていないというか、そういう部分があるのかなと思います。

【H委員】

確認なのですが先ほど進捗状況が良くない理由の中に交渉不能のような部分があり、そういう部分を含めて後 6 万㎡という言い方をされていたような気がするのですが、それはもう対象外になってしまっているのでしょうか？

【高山委員長】

6 万㎡はまだ交渉の段階に入っていない、再編の対象にもなってしない状態。

【H委員】

6 万㎡は除外なんですか？

【高山委員長】除外ではなく、それをこれから

【H委員】見込まないということですか？

【高山委員長】

見込まないのではなく、逆に6万㎡足りないので、これからプラスαとして見込んでいかないといけないということです。

【H委員】見込むというのは対象として見込むということですか？

【高山委員長】そういうことです。どの施設を譲渡とか解体とか

【H委員】

それはもう不可能みたいな場所が道の駅とかいう話ではないのですか？

【C委員】例外は作らない

【H委員】今のは例外を作るという意味の見込みですか？それとも

【高山委員長】

道の駅は、民間施設でも道の駅でなければ使えるわけです。道の駅と名乗らなければ

【H委員】

それもアリとして考えるということですね。例えば今、借地の話があったじゃないですか。ああいうのが一番狡いと思っていて、そういうふうになったら法的執行でも何でもしていただいて、借地を止めてくださいということをもっと頑張っていくという道も考えた上で、その施設も対象にいれる可能性はありますよということを、本当にやる気があって数に入れて、でもそれが出来なかったら違う施設で賄わなければならないなんて言われたら、不法占拠みたいなものですね。している施設は、それはセーフということになるのかとか、例えばそこに道を通らせないようにわざとしている施設とか、きっとあると思うんですよ。そういうところが分かった上で、この中で選びましょうというのを、もう少し分かりやすい提示の仕方をしていただきたいということと、あと先ほどの耐用年数の話ですけど、あと3つとか4つとなると、必然的に新しい方を残すべきだとなってしまう、あそこのまあの施設は潰れるだろうとか想像がついてしまうところもある。そういう先が分かりやすいやり方は絶対あとで取り沙汰される

と思うので、そこも議論の余地かなと思います。あともう少し俯瞰で、ここはこれくらいというものがあると思います。それを見せていただいた上で、もう1つ2つ、例えばそういう施設、保育園とか公民館とかはもう少し数を維持できないかという前提で話をしながら調整していこうという風にしていただいた方が話しやすいのではないかと思います。今のままだったら、コレと言えはコレを無くすというアンバランスな話にしかならないのではと思って先ほどから話を聞いていたので。是非とも何かこう叩き台ではないですけど、ある程度の計画にのった、こういうのが望ましいのではないかというAプランBプランCプランくらいの何か、要は教育型だったり、地域密着型だったり、そういう3つくらいのタイプ別案みたいなものを見せてもらった方が、イメージがあるのであれば分かりやすいというか、意見がしやすいのかなと感じておりますけども、どんなものでしょうか。

【高山委員長】事務局は、いかがですか？

【石崎行革・施設管理課長】

先ほど道の駅の例をあげましたが、道の駅として使う場合は行政が保有しなければいけないのですが、例えば運営はPPPやPFIという手法もありますので、行政が全て維持管理にお金を出さなくても良いというかたちもあります。基本的に例外は無いと考えております。例えば今、井口の小中一貫校ということも進めており、基本的にそれは尊重しなければいけないと思っておりますが、この会の議論の中で、どの学校ということまでは求めておりませんが、学校はどのくらいということ、あまり前提無くご検討いただけたらと思っております。ここに載っている施設は全て対象で、本当に将来の子どもたちのために何を残していくべきかという観点からご検討いただけたらと思っております。25万㎡を作ったときの案はA3資料の左側にあげてあり、面積も総合管理計画の中に何㎡かを記載しておりますので、基本的には総合管理計画で示した25万㎡が本当にその縮減面積で妥当かどうかということ、これをまず検討いただいて、その上で、これはやっぱり残すべきだろうとか、これはまだまだ減らさなければいけないということを検討いただいて、増やすとか減らすとかの方に進めていただけたらありがたいと思います。

【H委員】

先ほど6万㎡もこの中で話してくださいという話だったので、今の話で言えば今度そこからもうちょっと見直したいというのが増えたと思うが

【高山委員長】

総合管理計画の 25 万㎡は減らすというのは変えられないと言われていました。

【H委員】

25 万㎡の最初の管理計画があるじゃないですか。その一回見直しをかけたということでしょうか。

【高山委員長】 中身を見直すということは可能ですね。

【H委員】

見てもらってから 6 万㎡をまたこうというのは話が、最初の話だと 6 万㎡だけのこととして聞いていたので、どこまでが決まっているのかというのが分からなかったものですから、大体理解できました。

【高山委員長】

他の方は大体やらなくてはいけないことについてご理解いただけましたか？

【C委員】

公共施設再編計画の中で施設ごとの短期・中期・長期の前半後半と 4 分類に分けた一覧表がありますが、その中で 4 分類のいずれにも書いていない施設、例えば利用者が 3 割減ったら対象にしますという施設がいくつかあると思うのですが、こういう後期にも書いていない施設、例えば公民館など、それ以外にもいくつかありますが、特定的かな？国指定の合掌造り集落とか城端の曳山会館とか福光美術館もそうですが、これは来年しめてみて 3 割減っていたら再編計画に入れるという、この考え方は今も生きているの？

【石崎行革・施設管理課長】

計画的には生きていますが、今の議論の中では特に気になさらなくてもよいかなと思います。

【C委員】 これは一旦棚上げするという話か？

【石崎行革・施設管理課長】 そう（3 割減）なっていれば対象になってきます。

【C委員】 普通は 3 割は減らないでしょう？そうでもない？

【石崎行革・施設管理課長】 いや、そうでもないと思います。

【C委員】 3割という物差しも変えるつもりは無い？

【石崎行革・施設管理課長】

今はあくまでも再編計画。皆さんには個別の施設をどうこうしてもらおうということは思っておりませんので、あまりこの3割ということは、もしなれば再編を進めていきますが、まずは将来何を残すのかという、そこを判断いただければと思っております。

【C委員】 A3のこの資料が議論のベースということ？

【石崎行革・施設管理課長】

はい、あまり個別の施設のことを考えると、どの施設からということになるので、そういう議論は皆さんにしてもらおうと大変だと思います。ただ、翌年度はそういうことに踏み込まなければならないと思っております。それはまさしく今ほど発言いただいたことを踏まえて、本当にどれをということを実際に考えていただかないといけないというふうに思います。

【高山委員長】

どういう施設をどれくらいのレベルが、必要最低限必要かということを検討する上では、おそらく他の自治体の状況との比較というのが一つの根拠になると思います。もちろん南砺市と金沢市を比較しても話にならないのですが、よく似た自治体、要は複数の自治体が合併して出来た人口規模が5~10万くらいの全国の新しい合併市がどういう状況にあるのかということをして是非調査いただいて、そこでの検討の方針なり方向性を参考にすれば、私は非常に判断をする上で良いのではないかなと思う。人口規模だけではなく面積というのかなり影響します。実際問題、市民の利用のしやすさというのは、その施設への距離というのも関係しますので、単純に南砺市と同じような人口の能美市というのが石川にあるのですが、能美市は3町が合併して人口規模は良く似ているのですが面積が全然違います。非常にコンパクトで横に並んだ団子3兄弟のような能美市とでは比較になりませんが、もし同じようなところがあれば、そういうところがどんな風に再編計画を作ったのかという情報を集めてもらうのも一つかと思えます。もちろん面積の状況が変われば、また違うのですが、全く同じという自治体は無いのでよく似たところをピックアップして調べてもらえたら良いと思います。

【C委員】

このA3の資料が基本になって、市が方向性をある程度示している中で、ちょっと釈然としないところがある。例えば野球場は1カ所でよいとあるが、今の先生の話でもあるように何と比べて、城南スタジアムと福光の野球場は、利用率が高くて土日の試合を申し込むのが大変だと言われている中で、南砺市の野球場は一つで良いというのか。まだまだ元気な施設で、外野側やスタンドの芝を管理するにはお金はかかるが、野球場は今あるのは一つで良く、温水プールも一つで良いとされている。温水プールは、城端にも福光にも井波にも福野にも4つもあるものを一つで良いと、これは誰が考えたんですか？何を物差しにはめてみたら一つで良いということになるんですか？文化施設も福野のヘリオスと井波の文化センターと城端のじょうはな座があるが、これを2つにすると言う。その根拠がよく分からない。そういうことを我々で議論して、仕方がないとなるのか？決めたら決めたとするのか？それが分からない。非常に難しい、相当なものですよ、その責任を我々に負わせるというのは本当に…

【H委員】

僕も一つお願いしたいんですが、1つとか2つとかいう案が先にあって、委員長先生に、こういう基準で良いでしょうかという風に作っていくものなのか、委員会の流れがよく分からない。

【C委員】

非常に不満なのは、こうやってもう書いてあること。書いてあることを追認する委員会になってしまうのか、ゼロベースから話をするのか、流れがよく分からない。もう書いてありますよね？

【石崎行革・施設管理課長】ここに書いてあるのは今の計画です。

【C委員】今の計画にはそうならないでしょう。

【石崎行革・施設管理課長】

今の計画として、公共施設総合管理計画にあげたものを左側に、右側には公共施設再編計画で決めたものをそのまま書いています。3年少し前に計画を作ったときに、高山先生が言われたような他市のことを全て調べた訳ではないのですが、市として規模等言えば文化センターは1つくらい、温水プールなら他市では無いところもあるかもしれないですが、1つくらいとシミュレーションした

結果、今のこの施設を再編すれば、将来の子どもたちにはもつような計算になったので、これで計画を皆さんにお示しして、これで良いですかということを決めさせていただいたということが左側にありまして、いざ個別の施設を出した時には、皆さんからの反対もありまして結局 19 万㎡になったというのが右側半分の計画です。皆さんにはゼロベースで、そこはやはり案が無いと決められないと思いましたが、総合管理計画で私どもが決めた計画がこれで良かったのかどうかということも含めて議論いただきまして、ダメなら改正したいと考えております。施設面積については半減としておりますが、半減で良いのかというのはありまして、人口も減ってきておりますし、実は今回財政シミュレーションは出せなかったのですが、今の状態のままいっても、前の計画時より赤字の額が増えています。先ほど天文学的な数字と言われましたが、さらに数字が悪くなっているので、実際のところ今の状態のままやっていると半分どころでは済まないということになりそうです。今日は出せなかったのですが、そういうシミュレーション結果が出ております。ですので、子どもたちに何を残していくのか、耐用年数があっても、どこかで誰かが結論しなくてはならないと思っております。皆さんに決めていただきますが皆さんに責任を取っていただくのではなくて、皆さんに決めていただいたことを基に、市の方で当然責任をもってやっていく。責任は、市の方にありますので、そこはご理解いただいて、将来こうあるべきだろうということを考えていただいたものを私どもに言っていただければ、それを基に再度議会の皆さんにお話しします。行政改革推進委員会という別の諮問機関がありますので、そちらの方にも諮っていきたいと思っております。あまりその責任のことを、確かに重い仕事であることは十分承知をしておりますが、よろしく願いいたします。

【C委員】

施設別の資料は、もう一度聞きますが、26 ページ体育施設のところの計画に、野球場は城南スタジアムと東洋紡の野球場ということになっていて、野球場と位置づけているのは城南スタジアムだけだから 1 カ所にするという対象になるのか？短期にも中期にも印が無い。だけど福光の総合運動公園、あれも野球場として使われているが、短期にも中期にも長期にも入っていない。旅川のグラウンドもそう。私が言ったのは、最初の計画に書いてあると仰るけど、そこまで言ってなかった。

【石崎行革・施設管理課長】

6 万㎡に入っているのかも含めてですね。25 万㎡を決めた時は、どの施設ということは具体的に特定していません。裏側ではシミュレーションをさせても

らっていますが、まず面積として仮定をさせてもらっていますので、どの施設というのは決まっていませんでした。

【C委員】

例えば井波のラフォーレのプールもあるでしょ。あれは屋内競技場と位置づけてみたり、温水プールだと言ってみたり、これもよく意味が分からない。

【石崎行革・施設管理課長】

ラフォーレは、先ほどもありました複合施設で、白書の中で「複合」という黒丸が着いているものは、同じ施設の中にプールもあれば集会場もあるような施設は、複合施設となっていて、それぞれの施設ごとに掲載してあります。

【C委員】

短期・中期・長期という中では、福光の総合運動公園も入ってなかったし、そういう位置づけにはなっていなかったのか？文書上だけ残っていたの？

【石崎行革・施設管理課長】

総合管理計画では、文書上というか方向性としてはのっけていて、特定の施設を指定していたわけではないということです。

【高山委員長】

ざくっとした計画になっていて全施設を維持するのに年間いくら位かかる、減価償却がいくらかかる、それから収益がどれだけかかると、全体としてはそれでやっているのですが、ここの施設で見たときに収益率が違ったり、維持管理経費が全然違ったりするが、そこはどう考えていますか？

要は、効率の悪いところから潰せって言うのが普通の民間の考え方なんですけど、それは個別の施設の検討をする上で入っていますか？再編計画で、非常に広い面積だけど維持費はそんなにかからないという施設は効率が良い訳でしょ。残しても大丈夫な訳じゃないですか。逆に、面積が狭くて維持費がかかっている所は効率が悪いから、本当はそういうところを潰せば良いんだけど、面積には貢献しないから、どちらかと言えば広いところが再編計画にピックアップされがちだと思うが、そこは面積だけで議論していくのですか？

【石崎行革・施設管理課長】

基本的には面積だけではなく、維持管理経費とか更新費用とか全て含めて財政シミュレーションを行っておりますので、面積だけではございません。

【高山委員長】

個々の施設の維持管理経費をシミュレーションしているということですね？

【石崎行革・施設管理課長】

はい、25万㎡全部を維持すると、年間でいくら、30年間でいくらかかって、更新費用でいくらかかってということ全部シミュレーションした上で、25万㎡を縮減すれば何とかなるという結果が出たということです。

【高山委員長】

はい、分かりました。表に出てくるのは面積だけれど中身は元々経費ということですね。了解しました。

【F委員】

確認ですが、先ほど副委員長の方から五箇山荘というのは市として持つべきものなのかという意見があって、フルコスト、ネットコストから見ると民間として十分にお金儲けを出来ているところであろうかなと思うのですが、それで42ページのところを見るとイオックスヴァルトはネットのところは▲になっていますが、これは黒字ということでしょうか？で、これの再編時期が中期の譲渡になっていますが、ビジネスとして成り立つ力があるのであれば前倒しに言っても良いのではないのでしょうか。桜ヶ池クアガーデンも白書の中で、以前はフルコストが高かったが、今回いただいた資料の中では下がってきている。経営努力をしているところはちゃんと黒字に近づこうという、一般の家庭と同じですよ。ね。「おかあさんお小遣いが少なくなったのでちょうだい」じゃ指定管理者足りんだから「はい上げますよ」。「バスが燃費悪くなって坂も登らなくなったから買って」と言われたら「分かったよ。このカタログの中から選ばれ」なんて、民間ではありえないようなかたちの話で、管理者の経費を削減するよと書いてありますけど、民間としては、羨ましいなど。お金を儲ける力がいっぱいあるところ、例えばクアガーデン、天竺温泉、イオックスヴァルト、五箇山荘と、営業力のあるところの面積を足しただけで12,818㎡になります。これでもう20%削減できるんじゃないかという話も出てくると思うので、もう少し経営して黒字化しているところ、自立しているところに厳しい目を向けていかれるということもありじゃないかと思うのですがいかがでしょうか？

【高山委員長】 そういうところはもう入っているのでしょうか？違うのかな？

【石崎行革・施設管理課長】

時期的なズレはありますが 10 年後にはお渡ししたいと考えています。

【F 委員】 10 年と言わず早倒しをお願いします。

【石崎行革・施設管理課長】

中々自立が難しく、出来ればそうしたいのですが、現実には厳しく、出来るだけ頑張って進めてまいります。仰ることは十分に分かります。

【高山委員長】

よろしいでしょうか。時間もありますので、まだあるようでしたら振り返りで質問していただいて良いと思いますが、3 番目は資料が無いということですがどうされますか？

【森施設再編係長】 口頭で説明させていただきます。

【高山委員長】

では、3 番目の歳入・歳出全体ベースでの財政推計についてお願いします。

【森施設再編係長】

申し訳ございません。本日本来であれば資料の提供をさせていただくべきところでしたが、シミュレーションの結果、あまりにも数字の乖離が大きかったので、もう少し分析をさせてもらいたく、しばらくお時間をいただきたいと思います。

歳入・歳出全体ベースの財政推計については、総合管理計画時の財政推計と同じ手法で、改めて平成 30 年末の施設数を対象に推計いたしました。速報値的に聞いていただければと思います。全ての施設に対して耐用年数を 2 割延長して、尚かつ大規模改修を一歳しないという前提でシミュレーションしますと、財源の不足額が 30 年間で 1,989 億円、1 年あたりで 69 億円という数字が今現在出てきております。再編した結果、今の総合管理計画に基づいて 25 万㎡を削減したものと推計をシミュレーションしますと 30 年間の不足額が 812 億円、1 年あたり 27.1 億円不足するという結果になってきました。現在の計画では 30 年間で 16 億円、1 年あたりで 0.4 億円の黒字ということでシミュレーションしておりましたので、5 年経って 800 億円ならびに 27 億円の赤字になるという推計が出てきたものですから、これだけの数値が乖離するというのは現実的では無いと思いながら、その事由がどこにあるのかというのを、事務局の方で

しばらくお時間いただいて解析をさせていただければと思っております。資料 3 については簡単でございますが以上です。

【高山委員長】

はい、ありがとうございます。分かったような分からないような説明内容なんですけど、何かご意見ご質問ありますでしょうか？

最初の 1,989 億円というのは、30 年間で必要な維持管理更新経費ということですか？

【森施設再編係長】

はい、平成 30 年末の施設を全部維持して耐用年数を 2 割延長し、大規模改修を一切しなかった場合の推計が、その数字です。

【高山委員長】 25 万㎡残してということですね？

【森施設再編係長】 50 万㎡を全部維持した場合にかかる経費の推計です。

【高山委員長】

それを 25 万㎡にすると 812 億円が不足するというのは、よく分からなかったのですが、南砺市の財政からして不足するということですか？

【森施設再編係長】

そうです。歳入・歳出で推計しておりますので、公共施設だけで 812 億円不足するというのではなく、扶助費・公債費・人件費・補助費などの歳入歳出全体をとらえてシミュレーションした場合にトータルとして 30 年間で 812 億円が不足するということですので、公共施設だけで 812 億円足りないという意味ではなく、ほかの費目が要因ということも当然考えられます。歳入が小さくなっているとか、そういう可能性もあるので、どこに大きな要因があるのか、もう少し時間をかけて詰めたいと考えております。

【高山委員長】

要は、南砺市全体として毎年 27 億円程度の赤字になるということですね。普通、市が赤字になったときはどうされているんですか？市債とか何かでこう？

【森施設再編係長】

シミュレーションでは市債等も見込んでありますので、尚かつ赤字というこ

とになると通常、基金の繰り入れで耐えしのぐしかないのですが、基金の方も限りがありますので 30 年もつかと言われると非常に厳しい状況です。

【高山委員長】

先ほど基金は 230 億円程度ということでしたから 27 億円ずつ食い潰すと 10 年もたない。30 年間はととてももたないと、そういう状況だということ、このままいくと確実に再建団体に転落ですね。これは大変。今南砺市は一般会計の規模はどれくらいでしたか？500 億円はないですよね？

【石崎行革・施設管理課長】平成 30 年で約 330 億円です。

【高山委員長】

はい、何かご意見・ご質問ございませんか。これでいくと 300 億円の収入に対して 320 数億円の支出になるということですね。赤字・・・よろしいですかね。

それでは次の議題、4) 第 2 次南砺市公共施設再編計画の改訂について、これは資料 4、先ほどから少し資料 4 の説明もありましたけど、改めて説明をお願いします。

〔事務局説明（資料 4）〕

【高山委員長】

はい、ありがとうございます。今説明いただきましたが、ご意見・ご質問があればお願いします。何かございますか。

あの、再編方針の右側は、第 2 次南砺市公共施設再編計画で方針として決めたということですか？

【森施設再編係長】

はい、第 2 次公共施設再編計画で決めた方針です。

【高山委員長】

これを見直すということによいのですね？極端な話をすると公民館は「市民活動の拠点であるため維持」と書いてありますが、公民館は行政が持っていないけれども良いだろうとして民間に譲渡するというのもアリということですね？

【森施設再編係長】はい

【高山委員長】何かご意見ございますか。

【C委員】

資料4の1ページのフローチャートですが、下の方に、破線で囲んである公共施設再編計画存続施設検討部会というのは、今日発足したこの委員会の下部組織として、また有識者や団体利用者に集まってもらって、これは我々が模様替えになるのですか？

【森施設再編係長】

そうではないです。この委員会は今年度限りで方向性を決めて、1回閉じさせてもらいたいと思います。

【C委員】

方向性を決めたのを受けて、じゃあどの施設を残すのかということのを再検討する、個別の施設を対象とした検討を行う委員会とか部会を令和2年度に設置して、行政改革推進委員会に答申するみたいなことなのでしょうか？

【森施設再編係長】

そうですね。かたちとしては、まだ次年度のことですので決定はしていないのですが、仰られた内容がほぼそうできて、来年度は今年検討していただいた結果・方針に基づいて個別の施設を来年決めていただき、それについて行政改革推進委員会に報告する流れということで考えております。

【C委員】

我々、今日作られた委員会は、方針を市長を本部長とする行政改革推進本部に答申すれば、一旦は役目を終わるということによろしいか。

【森施設再編係長】はい、そうです。

【高山委員長】ほか何かございませんか。

【G委員】

すみません。基本的なことを伺います。例えば私は、まだ子育て世代なのですが、人口がどんどん減って行って子どもの数も少なくなっていく中で、それでも教育機関は残していかないといけないという考えを持って、ここの場に来ていたとして、そもそも議論に値していく、この延床面積というものを、どう考えて

いけばよいのか分からなくて、例えばこの施設、最終的には何と何を統合していくという考え方もあるのかもしれませんが、それは次年度にということもあって、方向性だけという話になると、どこまでのこう自分の意見として考えて次回また臨めばよいのかということは、ちょっと聞いていて分かったような、分からないような気持ちでいます。これは質問なのか何なのかちょっとよく分からないのですが、今後の話し合い方にも関係してくると思いましたので、質問させていただきます。

【高山委員長】事務局いかがですか。

【石崎行革・施設管理課長】

やはり今後の進め方にも関わってくるのかなと思います。先ほど高山先生からも他の市町村でもいくつあるかというお話があったので、次回にはそういうこともお示ししながら、本当に南砺市の子どもたちのためにどんな施設が必要かということを考えていただければと、当然、野球場も体育館もプールもみんなあればよいのですが、それらをもっていくということになれば誰かが負担していかなければならないわけなので、そういったことを含めて、こんな施設は市に一つでよいのではないか、ここは砺波にあるので南砺では我慢するかとか、そういったことを含めてご検討願いたいと、そういうことでよろしいですか。

【F委員】

何だかすごく無責任なような気がしてならないのですが、「1個にしてください」と、この委員会で決めて次年度で揉まれる時に、1個と方針が決められているから、どこかで削らないといけないと、喧々諤々の委員会で議論がなされるとなると、中途半端に1個でいいよね、データがこうだから1個でいいよねというのはイージーじゃないですか？

【石崎行革・施設管理課長】

言いにくいというのは十分に分かっております。ですが、誰かが決めていかないと、そこは市が最後は決めなければいけないと思っております。皆さんが考えていただいたものを基に、それがそのまま全部、市の方で認められるかも含めて行政改革推進本部会議で議論する必要があります。

【C委員】

もっと言えば、今の話と一緒に、先ほど私が質問した資料4のフローチャートは下と上が逆じゃないの？我々が1個だと決めたのを下の検討部会の人たち

は1個しかダメだから潰すという話をするわけでしょ？

【F委員】

最終的に市が決めると仰るのであれば、次回の委員会には、もう少し明確に市としてはこことここを残したいとかハッキリ仰っていただいた方が、我々が宙ぶらりんの立場でいなくてもよいのではないかなと思います。

【石崎行革・施設管理課長】

市としてはまず、総合管理計画として決めたものがございますので、それ基に、あなたたちは何を言っていたのかということを経験していただき、当然他の市町村の事例も出させてもらいます。

【H委員】

どこの文化センターを残してほしいというのは言い易いかもしれないですけど、全部で一つという話だからどこになるか分かりませんよとなると、それだったら全部無くせばいいじゃないかという話になるのではないかな。

【石崎行革・施設管理課長】

先ほど申し上げましたように砺波に文化センターがあるので、南砺市は文化センターを我慢する代わりに、この施設を残そう、学校はやはり大事だから学校は全部残すかわりに、という議論はあるかと思います。

【C委員】

今の学校の議論もそうだが30年間、今もう5年が経過しているので25年間の南砺市の計画を決めるわけですよ。僕らがずっと言っているのは、福光に吉江中学校と福光中学校が2カ所、1学年に1学級しかいなくなるようなご時世でしょ。それは維持すると最初に決められていて、それに意見を述べたり、一緒になった方が良かった方が子どもたちは幸せになれると、私はかねてから思っているのですが、一方で井口に小学校と中学校を残すか残さないかという話ですよ。子どもが1年間で生まれたり生まれなかつたりするような地区で、小学校や中学校を維持するのが本当に正しいのか。子どもたちのためには城端の小学校に行った方が幸せかもしれない、ということを経験して議論するのかと思っていれば、小中一貫校という話が出てきて、小規模校を助けるのにそういう方法があるとなれば、それをみんなで応援しましょうというのが我々の地域づくり協議会の意見。ところが、廊下でつながっているはずの学校が、小中一貫校にするから、小学校を潰して新しい学校を新設するのに16億円かかると決めた

という。それはどういう話なのか？片方で言っていることと、小規模校を残すために知恵を出すということは分かる、例えば平・上平に新しい小学校と中学校、そんなやり方があるのなら今の学校を潰して小中一貫校にしようという話、城端もそうなりますよ。30年先だから。これ、みんな井口方式を主張されたらどうなるのですか？私は、井口に今16億円をかけてチャレンジする意味合いは全くないと思っています。廊下でつながっているから、それで頑張るから残してくれというのであれば、残すべきだし、頑張ればよいと思う。16億円投資して井口に学校を残す意義は、私はおかしい話だと思います。そこは内部でどんな議論になっているのか、不思議で叶わない。

【高山委員長】

おそらく、潰すか維持かを議論するところと教育組織では違うのですよ。同じところで議論したらそういう議論になるはずがないですよ。今、小中一貫校あるいは中高一貫校は流行りなので。

【C委員】

流行りはいいけど、井口では1年間に3人しか生まれないみたいところで、小学校中学校を維持できるのかといたら、小中一貫校にするから学校も16億円かけて建てて、城端から5~6人、井波から5~6人、福野からも少し来ていただいて18~20人くらいのクラス編成になるという。城端から5人も行かれたら、2クラスだった小学校が1クラスになるかもしれない、子どもの奪い合いのような論理が発生している。こういう議論を我々はしたらいけないのですか？

【高山委員長】 どうですか？ここで議論することではないですか？

【石崎行革・施設管理課長】 それはまた別のところで

【C委員】

それはおかしいですよ。学校は今のまま減らしませんかと言ってみたい

【石崎行革・施設管理課長】

いくつという議論までいくのか、前の計画のときもいくつというところまでしか議論していないのですが、やはり子どもが減ってきておりますので、それは避けて通れないところだと考えています。

【C委員】 避けて通れないというのは、井口みたいにするという話？

【石崎行革・施設管理課長】

それもそれで一つだと思います。ただそうなれば、他の施設で相当考えないと財政シミュレーション的には厳しいかと思います。

【C委員】 そういう議論は教育委員会とはしておられるのですか？

【石崎行革・施設管理課長】

基本的には学校も全部再編の25万㎡の見直し対象の中に含めると言っておりますので、どうあるべきというのは、本来ここで決めていただきたいと思っております。それとは別に今小中一貫校という話が出ておりますので、次回までに、そういうことも含めた学校の取り扱いについてお示ししたいと思っております。

【高山委員長】

ありがとうございます。中々議論は難しく初っ端でこういう議論ですからきっと次回はもっと凄惨な議論をしなくてはいけないのかなと思います。その他として何か事務局ございますか？

【石崎行革・施設管理課長】 特にございません。

【高山委員長】

では、10～12月で結論を出さないといけないということですが、また次回を調整いただけますね。それでは、本日議論しないといけない協議事項はこれで終わりましたので、進行を事務局にお返しします。よろしく申し上げます。

【石崎行革・施設管理課長】

今ほどは委員のみなさまからたくさんのご意見ありがとうございました。本日のご意見等を踏まえて、次回こんなふうにとということで資料をお示しさせていただきますと思います。それでは、閉会にあたり柴担当部長からご挨拶申し上げます。

【柴市長政策部担当部長】

皆さま方、本当に長時間に渡り、ご議論をいただきまして、まことにありがとうございました。事務局から南砺市の現況についてお話しをしましたが、よく南砺市の置かれた状況を分かっていたかと思っております。こういった状況ですので、25万㎡を削減、それでも足りないという状況になりつつあると

ということございますけれども、住民説明会等をやりますと、それこそ総論は賛成でも、具体的な各論に入ると、どういった施設を残すかということに入りますと、これは大変な議論になるということでございます。これは今後避けて通れない話でございます、まずこの会議においては、どういった分類のものを、どの程度残すかということにメスをいれていただく。その後具体的な施設の話に入っていくこととなりますが、皆さま方には、そうは言っても大変重要な議論をしていただくということですので、大変ご迷惑というか心労をおかけすることになるかと思っております、将来の持続可能な南砺市を考えるにおいては非常に重要な話であります。今後とも皆さま方のご協力をお願いしたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

【石崎行革・施設管理課長】

以上をもちまして、第 1 回南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(閉会) 午前 11 時 26 分